

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 5 8 0 0 2 5 9		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80番地74 (電話) 0 1 2 3 - 7 2 - 5 3 2 3		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成20年12月23日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年7月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤2人, 非常勤14人,	常勤換算5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:12,000円 暖房費(12~3月): 5,000円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.1歳	最低 73歳	最高 101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とくち内科胃腸科ファミリークリニック	あらい歯科
---------	--------------------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の豊かな住宅街に開設したグループホーム「ほのかの里 桜丘」は、法人が経営していた「ほのかの里 富士館」の入居者、職員が新築のホームに移り住み、新たな事業所として平成16年に開始したホームである。別棟には法人のデイサービス事業所、近くには、法人のグループホームもあり、日常的な交流が営まれている。当初から入居している利用者には重度化も見られるが、安全に配慮された環境で支えられながら、ゆったりと過ごしている。地域の祭りや法人の合同祭りには近所の人と交流を楽しんでいる。管理者、職員は利用者が楽しく安全に暮らせるように、常に温かく見守り、ありのままの生活を大切にして真摯に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 居室には写真などで、目印になる工夫がしてあり、献立は利用者の希望を取り入れ、入浴は大まかに決まっているが柔軟に支援している。ケア会議の必要性を認識し、事故に繋がる場面などを記録で共有、ホーム便りの工夫など、少しずつ整えつつある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は職員の意見を聞き、運営者と管理者、介護支援専門員が中心になってまとめ、職員は閲覧で確認している。今回は時間的なこともあり全員で十分に話し合う機会はなかったが、職員が中心になって評価を実施し取り組む大切さを認識した。全員での評価を次回に備えている。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 経営している近くのグループホームと合同で運営推進会議を開催し、それぞれの運営状況と行事についての報告や情報交換などを行っている。今後は回数を増やし定期的な開催に向けて検討中である。町役場の福祉部長は運営推進会議の委員をしており、当ホームも不定期であるができるだけ出向き相互間で連携を深めている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に受診状況や暮らしを報告する中で、職員も情報を共有し意見などを聞き出すように対応している。家族の苦情やリハビリの希望に対して運営者、管理者が状況を把握し早急に改善している。請求書の送付時に、便りと金銭出納帳を添付しているが、現在、ホームだよりの紙面づくりを工夫しているところである。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の夏祭りに参加し、町の「栗山天満の秋祭り」には、近所の人や別棟の法人のデイサービス利用者と交流し御神輿を迎えている。また、法人合同の「納涼夏祭り」にはボランティアや近所の人が屋台などの協力でお祭りを盛り上げ、利用者も一緒に楽しんでいる。行事以外にも近所の人がホームの東屋に立ち寄り利用者と会話を交わすなど、日常的な交流がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」との理念は作られているが、他ホームと共通の理念になっている。現在、事業所独自の理念を検討しているところである。	○	事業所独自の理念を作成するのに、職員全員で話し合い、また、運営推進会議の意見も聞き、理念の中に地域との交流を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに載せ、またホーム内の居間に掲示し周知している。理念を取り上げ会議などで話し合うことはないが、職員は日々理念に沿い、利用者が楽しく、ゆったりと過ごせるように見守っている。	○	理念を再考する機会に、その重要性を職員一人ひとりが意識し、日々の申し送りや会議などで折に触れ共有を深めることに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭りに参加し、町の「栗山天満の秋祭り」には、近所の人や別棟の法人施設デイサービス利用者と交流し御神輿を迎えている。また、法人合同の「納涼夏祭り」にはボランティアや近所の人々が屋台などの協力でお祭りを盛り上げ、利用者も一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成にあたって、職員の意見を聞き、運営者と管理者、介護支援専門員が中心になってまとめたものを職員は閲覧で確認している。今回は時間的な余裕がなく全員で十分に話し合う機会はなかったが、職員が中心になって評価をし、それらを取り組む大切さを認識した。	○	評価の意義を深めるためにも、今回の外部評価の結果を職員間で話し合い、次回に備えて全職員で行う自己評価の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は出席者の調整もあり、年に2回の実施となっている。近くにある法人のグループホームと合同で開催し、それぞれの運営状況や行事について報告、情報交換などを行っている。出席者からは特に意見などはない。	○	定期的な開催に向けて年間計画を立てるなど、徐々に会議の回数を増やし、内容の充実を図ることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の福祉部長は運営推進会議の委員になっており、代表、総合施設長は、できるだけ出向き、情報交換や運営について相談をするなど、相互間での連携を深めている。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は最低でも月に1回はあり、利用者の受診状況や暮らしを常に報告し、職員も情報を共有し対応できるようにしている。請求書の送付時に、個人の様子と行事を記入した便りと金銭納帳をも添付している。現在、ホームだよりの紙面づくりを工夫しているところである。	○	ホームだよりの内容や記載方法を検討中とのことなので、その紙面づくりに期待したい。また、職員の異動、離職がある時は、たよりに載せることも工夫し、遠方の家族には少なくとも月に1回は、電話等で話し合うなどの関係作りを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置されていない。家族の苦情やリハビリを希望する意見などには、代表、総合施設長、管理者が状況を把握し早急に改善し対応している。家族と長年の顔馴染みの職員もいるので、来訪時には意見などを率直に聞き出すようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の辞職を抑えるように努力し、利用者と馴染みの関係に配慮している。近くにある法人のグループホームの間で異動はあるが、散歩中や行事で異動した職員との交流は常にある。辞職の時、分かる利用者には職員が挨拶をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の情報を収集し、認知症対応や感染症、口腔ケアなどの医療的な知識・技術を学ぶため、交代で参加させている。また、職員の資格取得を支援し、外部研修などの費用は会社で負担し研修を受けやすいように配慮している。現在、法人内での合同勉強会も考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「民間介護協議会」に加入し、年に1～2回は札幌で行われる研修会に運営者、管理者、一部の職員が参加している。それらの内容を報告し、資料などは閲覧できるようにしてある。現在は法人内のグループホーム間で交流している段階である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	別棟の法人施設サービス利用から入居する場合は環境に馴染んでいるが、できるだけ事前に家族、本人の見学を勧めている。事情があり直接入居する例もあるが、話しかけたり、慣れた利用者に関わって貰ったりなどして馴染んでもらうように職員間で配慮し、孤立がないように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを意識し、手芸、料理、昔の歌や話などを教えて貰い、職員は利用者の力を引き出し一緒に過ごしながら学んでいる。昼食後、おやつの時、テレビを観る時など、共に過ごす時間を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で利用者の意向を把握し、花見に行きたい時は公園を散歩し、自宅に帰りたい気持ちがある時は気分転換を図るなど、その思いに沿って支援をしている。利用者の仕草や行動を見て、まず声をかけて聴くことを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者が、本人、家族からの情報や意向、医療関係者、職員からの情報を基に介護計画の原案を作成し、その都度出勤している職員の意見を聞いて最終的な介護計画書を作成する。作成した介護計画は、家族と可能な限り本人に口頭で説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、3ヶ月毎の見直しを行っている。入退院などにより身体状況に変化が生じた時は、出勤している職員で担当者会議を開催してモニタリングを行い、随時計画を見直して現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の送迎は、職員が行っている。利用者が病院などで点滴を行う様になった時は、職員が付き添うなど、状況に応じて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在3名の入居者が、以前からのかかりつけ医で受診している。職員が受診の送迎を行い、普段の生活を主治医に報告して受診結果を聞くなど、かかりつけ医と連携を取り利用者の健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療処置が必要になるまでは、事業所で看取る方針を持っているが、書類の作成はまだ行われていない。	○	看取りに関する書類を作成し、家族や利用者との同意を取り交わし、繰り返し話し合いを行い、方針を共有していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	来訪者名は職員が記録し、個人情報の取り扱いに配慮している。個人情報の書類は、事務所で保管している。利用者に話しかける時は、利用者を選択権があるような言葉かけにし、否定するような言葉は、使わないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、ある程度決められた日課はあるが、状況に応じて柔軟に対応している。日中、利用者が外出したい時は、希望に沿って可能な限り対応出来るように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、総合施設長が作成している。食材は、午後に翌日の分を買い物に行くので、時には利用者も一緒に出かける事がある。利用者の食べたい物や在庫食材により柔軟に献立を変更して利用者が楽しんで食事出来るように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の日を入浴日として、一人週2回を目標に入浴支援をしている。入浴拒否者は、異性職員の声かけにより拒否がなくなったりするので、声かけする職員を考慮したり、トイレに誘った流れで入浴誘導するなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開閉、食器洗い、居室のテーブル拭きなど利用者の状況に合わせて役割を持って生活出来るように支援している。別棟にある法人施設のデイサービスに来訪するボランティアのフラダンスを見に行ったり、東屋で一緒にお茶を飲むなど楽しみ事に配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外の天気の良い日は、毎日散歩をしたり、東屋で会話を楽しんでいる。車椅子で遠出が出来ない時は、玄関で外気浴をしたり、帰宅願望のある利用者に対しては、個別に散歩に出かけるなどの配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーをつけて、利用者の外出が把握出来るようにしている。帰宅願望の利用者が外出した時は、後ろから付いて行き安全に配慮している。近隣の人も見守りの配慮をしてくれるなど、地域との連携も出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋に消防署の指導のもと、利用者と一緒に避難訓練や消火訓練を行っている。別棟の法人施設のデイサービスの建物とは、扉で仕切られているので、災害時は鍵を開けてすぐ避難する事も可能になっている。	○	夜間を想定した避難訓練を行うと共に、運営推進会議において、地域の人に災害時の協力を得られるよう働きかけて行く事を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分量を記録して利用者の摂取量を把握している。食事は殆ど完食する利用者が多いので、注意が必要になった時など、利用者の状況に合わせて記録を取るようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーやサンタクロースのちぎり絵を飾り、季節感を取り入れた配慮をしている。台所は対面式になっていて、調理する姿が見えたり、料理の匂いを感じるなど生活感を感じる事が出来る。広々とした居間にはソファが置かれ、利用者が思い思いの場所でゆったり過ごせる様に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や家族の写真、縫いぐるみなど利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。表札に、利用者と家族の写真を額に入れて飾るなど、細やかな配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。